



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年1月27日

上場取引所 東

上場会社名 ホリプロ

コード番号 9667 URL <http://www.horipro.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 堀 義貴

問合せ先責任者 (役職名) 業務本部執行役員

(氏名) 吉田 正通

TEL 03-3490-4601

四半期報告書提出予定日 平成24年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	13,610	△8.8	1,247	△20.9	1,364	△20.6	772	△20.0
23年3月期第3四半期	14,919	2.3	1,575	57.5	1,717	48.7	965	177.9

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 630百万円 (△17.6%) 23年3月期第3四半期 764百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	54.49	—
23年3月期第3四半期	68.08	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第3四半期	25,759	20,190	77.5	1,408.36
23年3月期	26,519	20,008	74.7	1,397.21

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 19,966百万円 23年3月期 19,808百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	7.00	—	24.00	31.00
24年3月期	—	7.00	—		
24年3月期(予想)				0.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成23年3月期期末配当金の内訳 記念配当 6円00銭

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,469	△7.2	1,378	△36.6	1,532	△34.5	786	△15.9	55.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期3Q	14,182,800 株	23年3月期	14,182,800 株
② 期末自己株式数	24年3月期3Q	5,972 株	23年3月期	5,779 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期3Q	14,177,010 株	23年3月期3Q	14,177,143 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料及び添付資料記載の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（その他）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報等	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(7) 重要な後発事象	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

<全般の概況>

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、東日本大震災からの復興に伴い緩やかな回復基調にありましたが、欧州の政府債務危機などを背景とした海外景気の減速により円高が長期化するなど、先行きに対する不透明感が強まっております。

当業界を取り巻く環境も、企業の広告宣伝費の削減等の影響を受け、厳しい状況が継続いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、次世代のスターの発掘・育成を図り、根幹であるタレントマネジメントを軸に、そこから派生するさまざまなビジネスを拡大させ、映像、肖像、音楽などに関わる多くの権利を保有する「コンテンツホルダー」として、人々の心に夢や感動を提供するエンターテインメントの創造に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期の連結業績は、営業収入136億10百万円（前年同期比8.8%減）、営業利益12億47百万円（同20.9%減）、経常利益13億64百万円（同20.6%減）、四半期純利益7億72百万円（同20.0%減）となりました。

<報告セグメントごとの概況>

各セグメント別の金額はセグメント間の取引を含んでおり、連結合計の金額はそれらを消去した後の数値であります。

① 出演事業

出演事業においては、和田アキ子、片平なぎさ、榊原郁恵、井森美幸、山瀬まみ、宮崎美子、船越英一郎、鶴見辰吾など、存在感のあるベテラン勢が活躍する中、NHK連続ドラマ「ビターシュガー」や数多くのバラエティー番組に出演した鈴木砂羽、映画「夜明けの街で」やTBS金曜ドラマ「専業主婦探偵〜私はシャドウ」に主演した深田恭子、NHK土曜ドラマスペシャル「使命と魂のリミット」で主人公の研修医を演じた石原さとみ、SK-II、ケンタッキーフライドチキンなどのCMや、TBS開局60周年記念ドラマ「南極大陸」に出演した綾瀬はるか、舞台「アマデウス」で天才作曲家モーツァルトを演じた武田真治、2009年に公開され大ヒットした映画「カイジ」の続編「カイジ2〜人生奪回ゲーム〜」主演した藤原竜也、トヨタ自動車、東京ガスなどのCMや映画「スマグラー おまえの未来を運べ」に主演した妻夫木聡、ミュージカル「ピアフ」で1人7役を見事に演じた田代万里生、数多くのCMやNHKBSプレミアム「世界遺産 時を刻む」に番組ナビゲーターとして出演中の向井理などが様々なジャンルで幅広く活躍しました。

お笑いタレントでは、フジテレビ「笑っていいとも！」などに出演中のさまぁ〜ず、バナナマンなどが数多くのバラエティー番組で活躍しました。

また、36回目を迎えたホリプロタレントスカウトキャラバンは、初めて声優をテーマにオーディションを開催し、その声質が高く評価され、茨城県出身の田所あずさ（高校3年生）がグランプリを獲得しました。

この結果、当事業の営業収入は59億44百万円（前年同期比5.3%増）、営業利益は20億43百万円（同6.9%増）となりました。

② 映像事業

映像事業においては、テレビ番組では、日本テレビ「誰だって波瀾爆笑」、テレビ朝日「クイズプレゼンバラエティーQさま!!」、「お試しかっ!」などのレギュラー番組に加え、BS朝日「王様の家」、単発番組では、テレビ東京「刑事吉永誠一涙の事件簿シリーズ8」、フジテレビ金曜プレステージ「医療捜査官財前一二三 第二弾」、関西テレビ「船越英一郎の京都マル秘サスペンスツアー」、NHK-BSプレミアム「旅のチカラ『宇津井健80歳 馬上人生を過ぐ』」などを制作しました。

コマーシャルでは、「永谷園」、「そごう・西武 e. デパート」、「イー・アクセス Pocket WiFi」、アジア太平洋広告祭「アドフェスト2011」フィルム部門銀賞受賞に続き、2011 51st ACC CM FESTIVALにおいて金賞を受賞した「東京ガス 家族の絆・お弁当メール篇」シリーズ2作品目の「東京ガス お手伝い券篇」など質の高い作品を制作しました。

その他、配信分野では、携帯専用放送局BeeTV「和田アキ子のどこまでやらせんねん!」、「彼は妹の恋人」、GyaO!やWiiの動画配信コンテンツなどを制作しました。

この結果、当事業の営業収入は23億87百万円（前年同期比30.4%減）、営業利益は1億36百万円（同56.5%減）となりました。

③ 音楽事業

音楽事業においては、CDアルバムでは、芸能生活45周年を迎えた今陽子のヒット曲“恋の季節”を含むカバーアルバム「Love Seasons〜恋の季節たち〜」、和田アキ子のコンセプトアルバム「Ye11〜2011 BEST OF THE BEST」、尺八の新しい世界を切り拓く俊英 藤原道山が、ウィーン・フィルの若きコンサートマスター、フォルクハルト・シュトイデ率いるシュトイデ弦楽四重奏団と共演した「FESTA」、シングルでは、NHK-Eテレ アニメ「フ

「アイ・ブレイン〜神のパズル」のオープニングテーマに起用されたMay'nの「Brain Diver」、フジテレビの人気アニメ「トリコ」のエンディングテーマとなった、東南アジア出身のアニソンアイドル4人組ユニットSea☆Aのセカンドシングル「DELI-DELI☆DELICIOUS」などが発売されました。

DVDでは、May'n二度目の武道館コンサートの模様を収めた「May'n Special Concert 2011『RHYTHM TANK!!』@武道館」、子どもから大人まで愛され続けるチェコアニメのキャラクター“森の精アマールカ”のDVD-BOX「Amalka Sleepy DVD BOX」などが発売されました。

また、ホリプロ・エンターテインメント・グループ・インクの専属ソングライターである、Dean Dillonの「THE BREATH YOU TAKE」とPhil O'Donnellの「SHE WON'T BE LONELY LONG」の2作品が、全米のラジオ・テレビ等で最も多く放送され、カントリーチャート1位を獲得した曲に贈られるBMI Country Awards 2011を受賞しました。

※BMI (Broadcast Music, Inc.) とは、1939年に米国で創設された音楽の演奏権管理団体です。

この結果、当事業の営業収入は11億30百万円（前年同期比21.5%減）、営業利益は2億16百万円（同48.1%減）となりました。

④ 公演事業

公演事業においては、舞台公演では、海外公演での評価も高い吉田鋼太郎と、宝塚を退団後も数多くの舞台に主演し、さらなる飛躍を続ける安蘭けいによる彩の国シェイクスピア・シリーズの第24弾「アントニーとクレオパトラ」、2009年に市村正親が主演し、紀伊國屋演劇賞個人賞、読売演劇大賞最優秀男優賞を受賞して話題となった「炎の人」、今、最も“聴かせたい本”を題材にした新感覚リーディング舞台「豆之坂書店〜読みたがりたちの読書会」などを上演しました。中でも、英国や米国でも評価が高い彩の国シェイクスピア・シリーズの第24弾「アントニーとクレオパトラ」は、初めてのアジア公演を韓国ソウル・LGアートセンターで上演し、好評を得ました。

コンサート公演では、May'nが、より近い距離でのライブをコンセプトにした「May'n LIVE TOUR 2011『WE ARE SIDE-A』」と、コンサートホールでの「May'n LIVE TOUR 2011『WE ARE SIDE-B』」を全国14か所で開催しました。

この結果、当事業の営業収入は20億50百万円（前年同期比2.0%減）、営業損失14百万円（前年同期は1億5百万円の営業利益）となりました。

⑤ 小売事業

小売事業においては、ファッション雑貨ショップ「ルートスター」やアクセサリを専門に取り扱う「エクスペリー」にて、トレンドに敏感な女性をターゲットにした商品を、駅ビルを中心に全国で販売しました。

また、ベルギー生まれの世界的なカジュアルバッグブランド「キプリング」の日本総輸入販売元として、全国主要都市の店舗や百貨店、通信販売などを通じて販売しました。

この結果、当事業の営業収入は20億98百万円（前年同期比6.3%減）、営業利益は22百万円（同57.0%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

<資産、負債及び純資産の概況>

当第3四半期連結会計期間末における資産は257億59百万円（前連結会計年度末比7億59百万円減）となりました。

流動資産は154億49百万円（同2億10百万円減）となりました。この変動の主なものは現金及び預金の増加（6億61百万円）、受取手形及び営業未収入金の減少（5億56百万円）、有価証券の減少（5億65百万円）、仕掛制作費の増加（4億74百万円）であります。また固定資産は、有形固定資産の増加（2億26百万円）、投資有価証券の減少（7億44百万円）等により103億10百万円（5億48百万円減）となりました。

負債は55億69百万円（同9億41百万円減）となりました。流動負債は支払手形及び営業未払金の減少（同3億66百万円）、未払法人税等の減少（同5億60百万円）等により49億17百万円（同8億52百万円減）となり、固定負債は6億51百万円（同89百万円減）となりました。

純資産は四半期純利益の計上（7億72百万円）、剰余金の配当（4億39百万円）等により201億90百万円（同1億82百万円増）となりました。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は77.5%（同2.8%上昇）となり、1株当たり純資産額は1,408円36銭（同11円15銭増加）となりました。

<キャッシュ・フローの概況>

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は前連結会計年度末と比較して1億38百万円減少し、100億円となりました。

営業活動により得られた資金は5億47百万円（前年同期比2億70百万円減）となりました。資金の増加要因の主なものは税金等調整前四半期純利益の計上（12億58百万円）、売上債権の減少（5億56百万円）であり、資金の減少要因の主のものは法人税等の支払（10億79百万円）、たな卸資産の増加（3億26百万円）、仕入債務の減少（3

億62百万円)であります。

投資活動により使用した資金は、有価証券及び投資有価証券の運用に加え、有形固定資産の取得(4億34百万円)等により2億5百万円(同2億72百万円増)となりました。

財務活動により使用した資金は主として配当金の支払により4億62百万円(同82百万円増)となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、平成23年5月13日の決算短信で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,639	7,300
受取手形及び営業未収入金	2,897	2,340
有価証券	4,199	3,634
商品	642	494
仕掛制作費	265	740
その他	1,086	1,008
貸倒引当金	△71	△69
流動資産合計	15,659	15,449
固定資産		
有形固定資産	2,527	2,754
無形固定資産	341	336
投資その他の資産		
投資有価証券	4,967	4,222
その他	3,163	3,147
貸倒引当金	△140	△150
投資その他の資産合計	7,990	7,220
固定資産合計	10,859	10,310
資産合計	26,519	25,759
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	1,692	1,325
短期借入金	1,350	1,340
未払法人税等	708	147
賞与引当金	155	195
役員賞与引当金	99	80
資産除去債務	0	—
その他	1,763	1,827
流動負債合計	5,770	4,917
固定負債		
退職給付引当金	101	110
役員退職慰労引当金	325	356
資産除去債務	96	63
その他	218	121
固定負債合計	740	651
負債合計	6,511	5,569

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,583	4,583
資本剰余金	4,619	4,619
利益剰余金	11,083	11,416
自己株式	△5	△6
株主資本合計	20,280	20,612
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△92	△244
為替換算調整勘定	△379	△402
その他の包括利益累計額合計	△471	△646
少数株主持分	200	224
純資産合計	20,008	20,190
負債純資産合計	26,519	25,759

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
営業収入	14,919	13,610
営業原価	10,417	9,603
売上総利益	4,502	4,006
販売費及び一般管理費	2,926	2,759
営業利益	1,575	1,247
営業外収益		
受取利息	74	62
受取配当金	20	24
その他	70	55
営業外収益合計	166	142
営業外費用		
支払利息	7	7
為替差損	7	3
貸倒引当金繰入額	4	10
その他	4	4
営業外費用合計	24	25
経常利益	1,717	1,364
特別利益		
店舗開店負担金収入	10	0
特別利益合計	10	0
特別損失		
固定資産除売却損	4	52
投資有価証券評価損	7	29
役員退職慰労金	88	—
その他	28	24
特別損失合計	128	105
税金等調整前四半期純利益	1,599	1,258
法人税、住民税及び事業税	554	535
法人税等調整額	47	△82
法人税等合計	601	453
少数株主損益調整前四半期純利益	998	805
少数株主利益	32	32
四半期純利益	965	772

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	998	805
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△180	△152
為替換算調整勘定	△52	△22
その他の包括利益合計	△233	△174
四半期包括利益	764	630
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	731	597
少数株主に係る四半期包括利益	32	32

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,599	1,258
減価償却費	175	185
投資有価証券評価損益(△は益)	7	29
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△310	31
受取利息及び受取配当金	△95	△87
支払利息	7	7
売上債権の増減額(△は増加)	503	556
たな卸資産の増減額(△は増加)	△71	△326
仕入債務の増減額(△は減少)	△569	△362
その他	1	252
小計	1,247	1,543
利息及び配当金の受取額	87	87
利息の支払額	△7	△7
法人税等の支払額	△528	△1,079
法人税等の還付額	19	3
営業活動によるキャッシュ・フロー	817	547
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	300	—
有価証券の取得による支出	△200	△1,900
有価証券の売却及び償還による収入	300	2,200
有形固定資産の取得による支出	△237	△434
無形固定資産の取得による支出	△32	△47
投資有価証券の取得による支出	△706	△602
投資有価証券の売却及び償還による収入	124	575
保険積立金の解約による収入	597	—
その他	△77	4
投資活動によるキャッシュ・フロー	67	△205
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△368	△439
その他	△11	△23
財務活動によるキャッシュ・フロー	△379	△462
現金及び現金同等物に係る換算差額	△27	△19
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	477	△138
現金及び現金同等物の期首残高	9,500	10,139
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	32	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,010	10,000

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	出演	映像	音楽	公演	小売	計		
売上高								
外部顧客への売上高	5,263	3,389	1,436	2,070	2,214	14,375	544	14,919
セグメント間の内部売上 高又は振替高	381	41	3	23	24	473	39	512
計	5,645	3,430	1,440	2,093	2,238	14,848	584	15,432
セグメント利益又は損失 (△)	1,910	314	416	105	51	2,798	△31	2,767

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、各種スクール運営事業、ファンクラブ運営事業、ライセンス事業、劇場運営事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利 益	金 額
報告セグメント計	2,798
「その他」の区分の損失	△31
セグメント間取引消去	△11
全社費用(注)	△1,180
四半期連結損益計算書の営業利益	1,575

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	出演	映像	音楽	公演	小売	計		
売上高								
外部顧客への売上高	5,547	2,381	1,130	2,034	2,091	13,185	425	13,610
セグメント間の内部売上 高又は振替高	397	5	0	16	7	426	66	493
計	5,944	2,387	1,130	2,050	2,098	13,612	491	14,104
セグメント利益又は損失 (△)	2,043	136	216	△14	22	2,404	△116	2,288

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、各種スクール運営事業、ファンクラブ運営事業、ライセンス事業、劇場運営事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利 益	金 額
報告セグメント計	2,404
「その他」の区分の損失	△116
セグメント間取引消去	△1
全社費用（注）	△1,039
四半期連結損益計算書の営業利益	1,247

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象
該当事項はありません。